

一般図書需要数の入力と提出物の出力

- 一般図書需要数一覧表を入力する
- 提出物、「一般図書需要数一覧表」を印刷する
- 提出物、「一般図書需要数一覧表」の提出データを出力する

需要数の入力と提出物の出力

	手順	操作[ボタン]入力等	備考
1	システムの起動	エクセルファイルをダブルクリック	
2	需要数集計画面を開く	[一般図書]	
3	需要票画面を開く	[一般図書(コード付)需要数一覧表作成]	
4	図書を選択する	[発行者コード]プルダウン[▼] [図書コード]プルダウン[▼]	『一般図書一覧』より正確にプルダウン入力の選択ミスにより正しく表示されていない場合があるため、正式な書名を必ず確認すること
5	冊数を入力する	直接入力	
6	備考を入力する	直接入力	使用学年等
7	整合性チェック	[整合性チェック]	
8	需要数一覧表の印刷	[印刷]	

令和7年度使用

教科書事務執行管理システム(設置者用) Ver.1.9.0

基本情報設定

マスタ設定

データ取り

需要数集計

2

教科書目録掲載図書

一般図書

バックアップ

3

一般図書 需要数集計

一般図書(コード付)需要数一覧表作成

一般図書(コード外)需要数一覧表作成

一般図書(特別支援学校視覚障害者用)需要数一覧表作成

一般図書提出データ出力

戻る 印刷 整合性チェック 整合性チェック結果

令和7年度使用

最後の行まで値を入力すると、自動的に次の行が連続付きで作成されます。

4

一般図書(コード付) 需要数一覧表

[発行者コード]見出しのクリックで、発行者コード・図書コード欄に並び替わります。

〇〇市立〇〇小学校

発行者コード	発行者略称	図書コード	一般図書名	需要数 全使用 教員用	備考
01-1	あかね書房	A01	もじのえほんあいうえお	1	5年
02-1	岩崎書店	A06	あそびの絵本ねんどあそび	1	5年
10-1	講談社	H05	ブルーナのアイディアブックミッフィーの1から10まで	1	5年
13-2	鈴木出版	A05	知育えほん マークのずかん	1	5年
14-5	世界文化社	625	からだのふしぎ! ひみつはっけん!	1	5年
16-3	大日本絵画	510	おとがなるしかけえほんおにわのおと	1	5年
16-4	太郎次郎社	A01	漢字がたのしくなる本シリーズ漢字がたのしくなる本ワーク1基本漢字あそび	1	5年

サンプル 一般図書需要表 1/1 ページ

[発行者コード]の見出しをクリックすると発行者・図書コード順に並び替わる

一般図書(コード付) 需要数一覧表

〇〇市立〇〇小学校

発行者	発行者略称	図書コード	一般図書名	需要数		備考
				生徒用	教員用	
01-1	あかね書房	A01	もじのえほんあいうえお			検定教科書と組み併せて給与する場合は整合性を確認
02-1	岩崎書店	A06	あそびの絵本ねんどあそび			
10-1	講談社	H05	ブルーナのアイディアブックミッフィーの1から10まで	1		5年
	ブルダウン[▼]入力		ワークのずかん	1		5年
	[一般図書マスタ]を取り込まないと表示されない		ぎ！みみのはなはな！	1		5年
16-3	大日本絵画	510	おどがなるしかけ			
20-4	戸田デザイン	004	ABCえほん			

採択内容の確認
ブルダウン入力の選択ミスにより正しく表示されていない場合があるため、正式な書名を必ず確認すること

一般図書について

1. 一般図書は採択権者が作成する「一般図書一覧」から採択すること。
2. 給与履歴一覧などにより、過去に給与済みでないことを確認すること。
3. 文部科学省検定済教科書または文部科学省著作教科書を一般図書として採択する場合には、一般図書需要数入力画面ではなく、小学校用または中学校用の需要数入力画面で入力し報告すること。
4. 特別支援学校及び特別支援学級においては、次のような図書等は無償給与の対象とならない。
 - ・児童生徒が使用する一般図書であっても、教室の備え付けが目的である図書。
 - ・一般図書を後期用として給与すること。ただし、検定済教科書の文字、図形等を拡大した、いわゆる「拡大教科書」については、原典となる検定済教科書の給与形態に準じて給与すること。
5. 一般図書は市販の図書であるため、絶版や品切れ等になる場合がある。設置者は、当該図書が現在も発行している図書であるかどうかを発行者（出版元）に確認すること。
6. 一般図書の需要数報告後に報告内容に変更が生じた場合は、県教育委員会が12月に行う一般図書の変更調査において報告すること。

参考 高等学校（高等部）用教科書

1. 高等学校（高等部）の第一学年の需要数の把握に当たっては、過去数年間の入学者数の実績を考慮するなど、正確な数の算出に務めること。
2. 選択科目については、各学校における事前のガイダンスや履修希望調査の実施、学校設置者における各学校の採択教科書と照合等の方法により、正確な需要数の把握に努めること。
3. 高等学校（高等部）の需要数は、同目録の「教科書の記号・番号」ごとに計上することとなっているため、分冊となっているものに留意すること。
4. 高等学校用需要数入力画面においては、教育課程類型名及び学年を選択すると、生徒需要数の欄に「基本情報設定」で入力した教科書使用冊数が自動表示されるため、選択科目などにより需要数と異なる場合は、手動で修正すること。
また、学校用の入力画面左上には、第1部～第3部に対応する学習指導要領の説明書きがあるが、高等学校用教科書の令和4年度用以降は第1部が平成30年文部科学省告示第68号の高等学校学習指導要領に対応するので、説明書きにおいて、第1部を第2部に読みかえること。
5. 特別支援学校（高等部）において、下位の学校段階の☆本を使用する場合、高校生は有償であるがシステム上は無償となってしまうので、入力の際は「教師用」として入力すること。

文部科学省事務連絡（令和6年6月3日付）抜粋